

## 令和2年第1回大川市教育委員会（定例会）会議録

令和2年1月30日、大川市役所第2委員会室において、令和2年第1回教育委員会（定例会）を開催した。出席者及び会議の経過並びに結果は次のとおりである。

### 1. 開会及び閉会に関する事項

開会 13時30分

閉会 14時40分

### 2. 出席委員の氏名

教育長 記伊 哲也

委員 谷川 朋昭

委員 一ノ瀬直子

委員 蔵本美保子

委員 恵崎 浩則

### 3. 欠席委員

なし

### 4. 事務局等の出席者

学校教育課長 石橋 正隆

学校教育課主幹 古賀美保理

生涯学習課長 岡 辰磨

生涯学習課長補佐 岡 美詠子

学校教育課長補佐 山口 馨

記録者・学校教育課総務係 永島 潤一

### 5. 傍聴者

なし

### 6. 付議案件

審議事項

(1) 議案第1号 大川市ふれあいの家の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例の制定について

(2) 議案第2号 大川市教育振興プログラムの策定について

報告事項

(1) 臨時職員等の任用について

(2) 令和元年度小・中学校訪問のまとめについて

(3) 令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の考察について

(4) 令和2年度教育委員会会計年度任用職員の募集について

### 7. 教育長の挨拶の要旨

(1) 今年の抱負について

今年も安心・安全な学校を目指す。また、新中学校の開校等に伴い、第2期大川市教育振興プログラムを1年前倒しで作成したため、このプログラムの具現化のために様々なことに取り組んでいく。

(2) 管内教育長会議について

1点目は、福岡県内の不祥事が戦後最大件数であると話があった。2点目は、コミュニティ・スクールについて、現在、設置については努力義務であるが、設置を義務にしてはどうかという声が出てきているという。福岡県はコミュニティ・スクール、地域学校協働本部どちらも設置されている率は11.1%で、全国的に見ても非常に低い水準。これから一層進めていかなければならない事業である。

## 8. 議事の概要

|                      |   |
|----------------------|---|
| 審議事項                 | (1) 議案第1号 大川市ふれあいの家の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について   |
| 委員                   | 減免対象者とは。  |
| 事務局                  | 例えば、市の事業でふれあいの家に宿泊された場合には、基本的に宿泊料を取らないので、そういった方は減免対象者となる。具体的にはジュニア・リーダー研修、自主事業等である。   |
| 《採決》 全員挙手により原案のとおり承認 |   |
| 審議事項                 | (2) 議案第2号 大川市教育振興プログラムの策定について   |
| 委員                   | 前回の案と比べて「プログラミング教育をはじめとする」という文言が削除されたということだが、他の部分に入れこまれたのか。   |
| 教育長                  | そうではない。イノベーション教育の一例として、特化して記載はしないということ。プログラム教育についてはもちろん推進していく。  |
| 《採決》 全員挙手により原案のとおり承認 |   |
| 報告事項                 | (1) 臨時職員等の任用について  |
| 質問・意見等なし             |   |
| 報告事項                 | (2) 令和元年度小・中学校訪問のまとめについて  |
| 委員                   | 2回目の木室小学校の合同訪問について詳細を。  |
| 事務局                  | 学校は校長・教頭・主幹教諭、教育事務所からは所長・主幹・指導主事、市教委からは指導主事2名で対応した。内容としては、校長が来年度の経営構想を次年度の校長にどのように引き継ぐのか話された。また、木室小学校が抱えている学力低下問題等についても話があった。厳しい指導もあったが、全般的には柔らかな雰囲気であった。 |
| 委員                   | 来年度に向けた取組の学習指導・授業改善についての記述の中に、主体的・対話的で深い学びを重視した授業作りの工夫を行うとあるが、具体的にはどういったことに取り組みされるのか。   |

|      |   |
|------|---|
| 事務局  | 特に中学校では、授業の中に考えを周りの生徒と対話して、より高い考えにしていく部分が不足している。若年教員はそういった活動を行っているが、高齢の教員は、古い授業スタイルのままでこの部分が足りないように見える。校内研に力を入れる等のバックアップが必要。  |
| 委員   | 今の話は「対話的」という部分での取組内容であった。「主体的」の部分はどうに進めていくのか。   |
| 事務局  | 授業の中で自らの課題を見つけることが大事。授業の初めに何を学ぶのか捉えさせ、自ら意欲的に取り組ませることが重要である。   |
| 教育長  | 対話は、子どもに主体的に学ばせるためのツールである。主体的に授業をしようとしているかは板書の「めあて」の部分に現れる。めあてが子どもにとって課題性があるものになっていることが大事。  |
| 委員   | 特別支援教育について、教職員研修はどの程度行われているのか。  |
| 事務局  | 研修については、校外研修・校内研修が実施されている。校内研修では各個人への対応の仕方等、情報共有を行っている。しかし、各校に配置されている障がい児等学習支援員との共通理解が不足しているように感じる。学校内での共通理解をもっと図らなければいけない。   |
| 委員   | 現状として困っている子どもがいる。外部での研修に参加するほか、講師を招いた研修会を実施するなどして、早急に対応願いたい。  |
| 委員   | 保幼小中連携事業・中高連携教育について、小中一貫型教育については、来年度から大川桐英中学校と大川小学校が同敷地内に併設されることから、ビジョンがあるかと思うが、具体的にはどのような構想か。  |
| 事務局  | 中高連携教育については、大川樟風高校との連携教育である。現在は、部活動交流を中心に、進路指導や行事も交流を実施している。今後は弓道場が新設されることに伴い、そういった部分でも行事交流を行っていきたい。<br>小中一貫型教育については、併設される2校を核にして、他の小中学校においても連携を推進していく。事業の内容については、小中学校教員の合同プロジェクトチームを発足し、協議を行っている段階である。 |
| 報告事項 | <b>(3) 令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の考察について</b>  |
| 委員   | 「自分には良いところがある」の問いについて、小学校の詳細を。  |
| 事務局  | 小学校「当てはまる」男子は40.9%、全国は44.8%。「どちらか言えば当てはまる」男子は33.9%、全国は34.3%。「どちらかと言えば当てはまらない」男子は10.8%、全国は13.8%。「当てはまらない」男子は14.8%に対し、全国は8.5%。女子も同様の傾向である。  |

|                 |  |
|-----------------|--|
| 委員              | <p>小学校の「朝食は毎日食べていますか」の問いについて、どういったものを食べているのかは把握しているのか。例えばお菓子を食べて朝食を摂ったということにしているのか、それは朝食として捉えていないのか。</p> |
| 事務局             | <p>メニュー等の詳しい内容までは把握していない。</p>  |
| 教育長             | <p>いずれにしても朝食摂食率は非常に低い。これは国で実施している調査であるため、問いの内容は変更できないので、市単独で独自で調査をするしかない。</p>                            |
| 報告事項            | <p>(4) 令和2年度教育委員会会計年度任用職員の募集について</p>   |
| <p>質問・意見等なし</p> |  |